

発行：ひたちなか市の環境を良くする会
 会長 小川 和 昭
 編集：広報委員会
 監修：ひたちなか市環境政策課
 TEL：029-273-0111 (内3312)

環境かわら版



第8回「緑のカーテンでエコチャレンジ」実施中(5月~9月) 環境講座「エコで育てて楽しい緑のカーテン」を開催



6月5日 心あみりこらぼで表題の講座を開き、佐和高校 JRC 部の生徒さん9名を含む、24名が参加しました。(写真は講座の様子)



「脱プラスチックを、まずは、台所から」と思い立ち、昨夏、ヘチマを栽培し「ヘチマたわし」を作ってみました。食器洗いに使ってみると、飯碗にこびりついた飯粒を気持ちよく掻き落してくれるので、ぜひおススメします。

緑のカーテン、夏場の「冷房節電」だけじゃない 作って、使ってみました！ヘチマたわし

作り方

6月に種をまくと7月にはグングン成長し、9月に立派な実をつけました。収穫したいところを約1ヶ月我慢。実がしっかり堅くなったら、手頃な大きさに切って、水に浸けておきます。果肉が溶けてスジだけになったら完成です。



前半は、温暖化防止分科会長より「脱炭素社会をめざして 知るから動くへ」と題して、温暖化の実情と世界中で取り組んでいる持続可能な開発目標(SDGs)についてスライドを交えて紹介がありました。後半は、「ゴーヤの植栽・篠竹支柱の作り方」「ヘチマの植栽と利用」(左囲み参照)等、緑のカーテンに関する実技や経験談を聞きました。また、高校生から昨年からはじめた「緑のカーテンでエコチャレンジ」の取り組みについて発表がありました。

募集 育成中の「緑のカーテン」の写真や感想をお寄せください

応募は、コミセン等に設置された応募用紙を使って郵送するか、または、本会ブログ「緑のカーテン」コーナーからも可能です。受付は8月末まで。

集計結果はブログやイベント等で紹介し、緑のカーテンの普及に役立てます。ご協力をお願いいたします。

緑のカーテン ホームページ



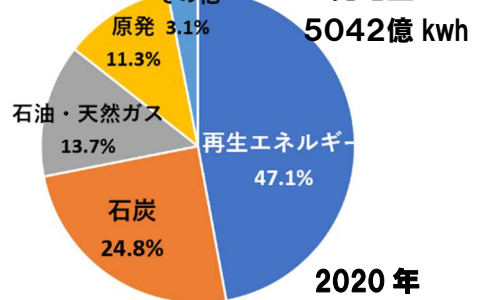
ドイツにおける再生エネルギーの現状を学ぶ

— 茨城大学 中田 教授による学習会 —

5月15日 心あみりこらぼで、茨城大学人文社会科学部教授の中田潤先生をお招きし「エネルギーの安全保障」と題して学習会を開きました。2011年の東日本大震災を契機に、エネルギー問題は、国民の大きな関心事の一つになりました。最近では、ロシアのウクライナ侵攻により、安定的なエネルギー資源の供給問題が、より一層切実な問題になっています。先生はドイツの大学院で学び、同国の実状に詳しいことから、石油・天然ガスなどの1次エネルギーの31%をロシアから輸入している。一方で、再生エネルギーへの取り組みが非常に盛んなドイツのエネルギー事情について講演されました。

ドイツでは、右図のように、全発電量5042億 kWhの47.1%は再生エネルギーによるものであり、日本の20%程度とは差があります。その内訳や取り組み状況、参加者の感想などを2面で紹介します。

ドイツにおける電力生産の内訳 全発電量



1面の講演内容

電力は、①運輸部門ではモーターを動かす電源として②家庭やオフィスではエアコンなどの熱源として利用されている。ドイツにおける再生エネルギーの利用について、具体的な説明がありました。

① 運輸

内燃機関を廃止して電気自動車にする。化石燃料を使わず、バイオ燃料（バイオディーゼル、バイオエタノール）を使用する。ドイツはこちらが主流となる。水素燃料は航空部門での有用性が注目されている。

② 熱源

熱源として電力を使うのは非効率的であり、効率性を向上させれば大幅なエネルギー源の節約になるとして、バイオマスを使用している。例えば、ドイツの一般家庭は、セントラルヒーティングなので地下室で木質バイオマスであるペレットを燃やします。エアコンを各部屋に配置するよりはるかに熱効率が良い。給湯も、電気温水器より太陽熱温水器のほうが効率的である。

バイオマス発電は、日本では間伐材など木質バイオマスを連想するが、ドイツではトウモロコシや穀物などの農作物をすりつぶして液状にした液状バイオマスや、これを発酵させたバイオガスがある。食糧であれば、殺虫剤や除草剤散布の必要が

あるが、バイオマスの資源にするにはその必要はない。自然にやさしく作りやすいので農家にとっては魅力的である。

こういった再生可能エネルギーを担ってきたのが、エネルギー協同組合や農業協同組合といった市民プロジェクト（電力市場の47%）である。その例として、ベルリンの南西90キロにあるフェルトハイムという人口128人、33世帯の小さな村は、農産物を市場で売るだけでなく、家畜の飼料、エネルギー作物として使用。村内には再生エネ会社があり、エネルギー自給ができてきているという。

参加した学生さんの感想

ドイツの市民による発電プロジェクトの事例を聞き、これは、農業王国茨城にふさわしい産業だと思った。原料の栽培に農薬や除草剤が不要で雑草すら燃料にできてしまう。バイオマス発電は、環境に負荷をかけないうえで作物を売るよりも付加価値が高いということを知った。

また、ドイツと日本の根本的な違いは市民の主体性だと感じた。子どもたちが「生まれてきてよかった」と思える社会を実現するために、ドイツの事例はとても参考になると思った。

SDGs・環境を考える6日間

6月22日から27日 ひたちなか市民交流センターギャラリーで「SDGs 環境を考える6日間」を開催しました。来場者延べ141名

本会のSDGsへの取り組み、環境活動等を紹介したパネルを展示しました。

SDGsのコーナーでは、地球温暖化の現状を説明した資料、温暖化防止の具体的な対策等についてパネル展示しました。

また、夏の省エネ・節電に向けて「緑のカーテン」普及・活動パネル、段ボールコンポストの見本・講習会の案内、ストップ使い捨てキャンペーンポスターの展示、森林保全活動で間伐した竹を有効利用した竹の工作品・花器の見本を展示しました。

夕刻からギャラリー前に食用油の廃油を活かしたエコキャンドルを灯し、省エネ・節電を呼びかけました。



エコキャンドルを点灯



緑のカーテンパネル・段ボールコンポストの見本展示



竹の工作品・花器

SDGs カフェ 食品ロス編

リモート座談会より

売れ残りや期限を超えた食品、食べ残しなど、本来食べられたはずのものが廃棄物となることを「食品ロス」といいます。国によりまずと、「食品ロス」が日本国内で年間570万トンといわれています。これは世界中の飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量(年間約420万トン)を大きく上回っています。



570万トンのうち261万トンが一般家庭からのものです。また、570万トンを国民1人あたりに換算すると、毎日お茶碗約1杯分(約124グラム)の量を捨てていることになりま。大切な資源の有効活用や環境負荷への配慮から、「食品ロス」を減らすことが必要です。

食品ロスを出さない暮らしは地球にもお財布にもやさしい暮らし、そんな食品ロス削減にまつわるエコなおしゃべり会をのぞいてみました。

★買い物に行く前には冷蔵庫の中のストック品を確認しています。

★買いたくないよう買い物リストを作っています。スマートフォンで冷蔵庫内の画像を撮っておくなども買いたくないのを防ぐのに効果的です。

国民1人当たり食品ロス量

1日 約124g

※茶碗約1杯のご飯の量に近い量

年間 約45kg

※年間1人当たりの米の消費量(約53kg)に近い量



総務省人口推計より



★冷蔵庫の中の保管場所を決めておけばストック品の消費期限切れを防ぐことができます。

★スーパーの陳列棚に並んだ食品の賞味期限や消費期限が長いものを選ぶと奥から取っていませんか。すぐに食べるものならば、手前の商品から取り、期限内に食べきれない分だけ購入するようにしています。

★賞味期限は「おいしく食べられる期限」、消費期限は「安全に食べられる期限」です。賞味期限が切れていてもすぐに捨てず、まだ食べられるかどうか自分で判断することも大切です。

★食べ残しは、せっかくお金を出して購入し、手間をかけて作ったものを無駄にしてしまうことになりま。食べる分だけ作りましよう。また、作りすぎてしまった献立は、別の献立に作り変えることで食べ残しを減らすことができます。

す。残りがちなカレーなどはチーズをのせてトースターで焼く「焼きチーズカレー」にリメイクすると、味が変わっておいしく食べることができま。

★野菜は育つ向きと同じ向きで保存すると長持ちしま。

★キノコは小分けにして冷凍すると長期保存と旨味と香りがアップしま。

★もやしは安いからと買い込んでも使わずに野菜室に入れておくとう傷んでしまいま。袋から出してかぶるくらいの水に浸し容器ごと冷蔵保存すると保存期間が伸びま。

★飲食店では、食べられる分だけ注文することを心がけ、食べ残しを防ぎましよう！

一人ひとりが「もったいない」を心がけ、美味しい食を楽しみましよう。



冷蔵庫の“密”解消は節電になります！

イベント・活動の予定



休耕地の有効利用

日時：8月20日(土)午前9時30分～
場所：美田多町
内容：そばの種蒔き、ジャガイモ、カボチャ植え



ひたち海浜公園パークパートナー活動

日時：9月23日(金・祝)午前9時30分～
場所：国営ひたち海浜公園 沢田湧水地 水田
内容：除草作業

うちエコ診断(家庭の二酸化炭素量チェック)に参加しませんか?

応募期間：6月下旬～8月上旬

本会ではエコチャレンジの一環として、「うちエコ診断」(県の地球温暖化防止推進センター事業)の無料受診を行っています。省エネなどのエコライフに関心のある方はぜひご応募ください。光熱費の節約などについてアドバイスも受けられます。



ブログから参加申込みができます。



<https://ameblo.jp/hitachinaka-kankyou/>



活動報告



多良崎城跡公園の自然観察会

5月8日 多良崎城跡公園で講師に県民生活環境対策課生物多様性センターの茂垣はるえ先生を迎え、自然観察会を開催しました。参加者は10名。観察会の説明のあとの木戸から二の木戸、本郭へ進み観察を行いました。本郭入口に昨年あった絶滅危惧種は残念ながら確認できませんでした。中に入るとヤマユリの群落がありました。二の郭ではナツトウダイ、三の郭にはツリガネニンジン・フタリシズカ。そして三の郭から燧台への通路では、貴重な植物の姿が見られました。これは昨年度の篠の伐採活動の効果によるものと思われます。燧台ではトンボソウ、ホウチャクソウの群落がありました。繁殖力の強い篠に覆われると日がさしこまず多様な植生が失われてしまいます。今年度も豊かな植生を守るために10月から篠刈りを行います。

特定外来生物(植物) オオキンケイギク除去活動

5月22日 さわ野社団地脇西道路側面をさわ野社自治会と協働で、5月28日 県道31号線から多良崎跡への分岐点付近のオオキンケイギク除去活動を行いました。参加者 延べ 46名

↓ 5年前の状況 ↓ 今年撮影



~~~~~ ひたちなか市の環境を良くする会 事業所会員の紹介 ~~~~~

<p>マルハニチロシーフーズ株式会社</p>  <p>ひたちなか市和町3丁目13400番地2</p>	<p>KOMATSU コマツ 茨城工場</p>  <p>ひたちなか市長野183-46 http://www.komatsu.co.jp/</p>	<p>Bio Power</p>  <p>木質バイオマス発電所(株) バイオパワー勝田 ひたちなか市長野1974-1 TEL029-270-3341</p>	<p>はなのお幼稚園 Hanano no Kindergarten</p> 	<p>ひたちなか・真海 ハイトラスト株式会社 ひたちなか市新光町103-2 TEL (029) 265-5371</p> 	<p>廃棄物の中間処理施設</p> <p>KATSUTA</p> <p>株式会社 カツタ</p> <p>ひたちなか市長野1968-2 TEL (029) 270-3711内 http://www.eco-katsuta.com/</p>
<p>ガーデン・エクステリアのデザイン・施工</p> <p>Maki planning http://www.mams-garden.com/</p> <p>ブログ選べるガーデン雑貨の専門店</p> <p>Mam's garden http://www.makipla.com/</p>	<p>人と自然への思いやりを大切に</p> <p>勝田環境 KATSUTA KANKYO</p> 	<p>私たちは、</p> <p>美しい地球を次の世代へ!</p> <p>のスローガンのもとに、一丸となって地球環境の継続的改善と環境汚染予防活動を推進しています。</p> <p>御日立製作所水戸事業所</p>	<p>社会福祉法人 新世会 いくい苑</p> 	<p>リコーインダストリー(株) 勝田事業所</p>  <p>インクジェットヘッド ドットライプリンタ</p> <p>ひたちなか市長野1060 www.industry.ricoh.co.jp</p>	<p>HiKOKI</p>  <p>工機ホールディングス(株)</p>